

船室について

- 全室シャワー・トイレ・冷蔵庫完備です。
- 船室は、上段ベッド付きとなる場合がございます。指定はお受けできません。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのお一人様利用は、ご旅行代金の200%となります。D1、D2は180%です。
- A1、A2、A3、A4、B、D1クラスは、洗浄機能付きトイレを完備しています。
- C1、G、I、Mクラスの1室申し込みでは、洗浄機能付きトイレのオプション申込が可能です（有料）。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのソファは、ソファベッドとしてもご利用いただけます。
- A1、A2、A3、A4クラスは船室指定が可能です（船室指定後に旅行契約を解除なされる場合、船室指定取
消料として旅行代金の5%を申し受けます。ただし、90日前以降は旅行条件記載の取消料に準じます。）
- お新年年始割にもご利用ください（大人1名につき未成年者1名無料（詳しくは弊社までお問い合わせください）
- 相部屋申し込みのお客様はシャワー、トイレ、ロッカー、その他の設備は同室者と共に用です。
- セミシングルタイプ、フレンドリータイプは、船室内をカーテンで区切り、プライベート空間を提供する
コンパートメントタイプです。
- 旅行開始時13歳未満（中学生を除く）のお子様連れでの相部屋申し込みはお受けできません。
- フレンドリータイプの船室は、2段ベッドの下段指定が可能です（有料）。ベッド下のスペースは同室者との共用です。

ビザ（査証）取得について

- クルーズに必要なビザ（査証）は、弊社にて取得手続きの代行をいたします。（有料）
- 参加いただくオプションツアーによっては、ビザ取得のための追加代金や追加書類をご提出
いただく場合があります。
- 本パンフレット記載のビザ取得代金は日本国籍の方の代金です。日本国籍以外の方もお気軽
にお問い合わせください。

海外旅行保険への加入が必須です

ご旅行中に疾病や事故などの事態に遭遇し、思いもよらない高額な治療費用や救護者費用などが
発生した場合、法律上これらの費用は全てお客様個人のご負担となります。このような事態に備える
ため、旅行期間のすべてがカバーされた海外旅行保険へ必ずご加入ください。海外旅行保険に加入
されない場合、本旅行への参加をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。

旅行変更費用補償特約の同時加入をおすすめします

クルーズの取消料はご出発の90日前から発生しますので、ご自身はもとより、ご家族・ご親戚の病
気・事故などでご旅行をキャンセルしなければならぬ場合に備えて「旅行変更費用補償特約」に加入
することをおすすめします。

海外安全情報

外務省の治安に関する海外安全情報より「レベル1：十分注意してください」が下記の通り发出されて
おりますが、現地手配会社、関係省庁、船舶代理店などから最新情報を得て、当社が安全と確認しま
したので本旅行を催行いたします。

「レベル1：十分注意してください」

香港、ポートエリザベス、クアツタウシ、ウールビスベイ、リオデジャネイロ、モンテビデオ、ブエノスアイ
レス、プンタアレナス、バルパライソ、カヤオ、イースター島

尚、現地の治安および感染症など海外の安全に関する情報は、お客様自身でも確認していただきま
すようお願いいたします。

旅行代金一覧（単位：円）

船室クラス		※いずれも大人お一人様旅行代金です					
バルコニー/窓	フロア	ベア (2人部屋)	相部屋可	シングル (1人部屋)	セミシングル (2人相部屋)	フレンドリー (3～4人相部屋)	
バルコニー付	9-10	A1 8,660,000	—	—	—	—	
	8	A2 8,160,000	—	—	—	—	
	9-10	A3 7,660,000	—	—	—	—	
	8	A4 7,160,000	—	—	—	—	
	10	B 6,580,000	—	—	—	—	
窓あり	10-12	C1 4,580,000	○	I 8,244,000	—	—	
	9	C2 4,480,000	○	J 8,064,000	—	—	
	9-11	D1 3,980,000	○	—	—	—	
	8	D2 3,880,000	○	—	—	—	
	8	E 3,580,000	○	K 6,444,000	E2 3,680,000	—	
窓なし	5-6	F 3,380,000	○	L 6,084,000	F2 3,480,000	F4 4名 2,380,000	
	8-11	G 2,680,000	○	M 4,824,000	G2 2,780,000	G3 3名 2,280,000	
	5-6	H 2,280,000	○	N 4,104,000	H2 2,380,000	H4 4名 1,980,000	

※フレンドリータイプは、出航時75歳未満のお客様限定です

※H4クラスのプロアは8-9階となります

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス（観光庁長官登録旅行業 第617号）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13
www.japangrace.com

一般社団法人日本旅行業協会正会員 旅行業公正取引協議会会員

振込口座	三菱UFJ銀行	三井住友銀行	みずほ銀行
口座名簿はいずれも (株) ジャパングレイス	高田馬場支店 普通 1211859	高田馬場支店 普通 9103064	高田馬場支店 普通 1991082

Coordinated by ビースポート 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1
TEL: 03-3363-7561 / FAX: 03-3363-7562 www.peaceboat.org

PHOTO: PEACEBOAT、井口康弘、中村充利、松田咲香、水本俊也、吉田タスク、Katsuta Airi、Adobe Stock、Getty Images、
shutterstock.com、ソー写真グッド株式会社



2030年までに日本のクルーズ人口100万人の達成に向けたキャンペーンに参加しています。

旅行条件(要旨) - 詳しい旅行条件書をお送りいたしますので、内容をご確認のうえお申し込みください -

本旅行条件書は、旅行業法第12条の4に定める取引条件説明書面および同法第12条の5に定める
契約書面の一部となります。

1. 募集型企画旅行契約

本旅行はNGOビースポートがコーディネートし、株式会社ジャパングレイス（以下「当社」といいます）
が企画・実施する旅行です。本旅行に参加されるお客様は、当社と募集型企画旅行契約（以下「旅行
契約」といいます）を締結することとなります。

2. 旅行のお申し込み

当社所定の旅行申込書に所定の事項を記入のうえ、申込金として旅行代金の5%にあたる金額（別紙参照）
を添えてお申し込みください。当社が申込金の受領確認が出来た時点で正式なお申し込みとなります。

3. 旅行代金に含まれるもの

①旅行日程に明記した船舶の運賃 ②船内宿泊（ご請求書に記載された船舶クラス）、船内イベント
（一部有料あり）の代金 ③明示した食事回数の料金 ④船舶による荷物運搬料金 ⑤添乗員の同行費

4. 旅行代金に含まれないもの（上記3項のほかは旅行代金に含まれません。その一部を以下に例示いたします。）

①オプションツアーの代金 ②船室クラス変更による追加代金 ③渡航手続費用（ビザ代・渡航手続
代行手数料・予防接種料金等）④船内のチップ ⑤ポートチャージ（港泊施設使用料等）⑥国際観光
旅客税 ⑦海外旅行保険料、電話代、飲み物代などの個人的費用 ⑧超過手荷物料金 ⑨ご自宅から
発着地までの交通費・宿泊費・手荷物運搬費 ⑩船舶のフェニール（燃油）サーチャージ ⑪船舶に課
せられるEU-ETS・FuelEU Maritime・GPI 等、環境規制対応費（環境対応サーチャージ） ⑫訪問す
る国や自治体等により課される環境保全税・観光税・オーバーツーリズム対策税

5. 旅行代金のお支払い

①旅行開始日の前日から起算してさかのぼって60日目に当たる日以降の当社の定める日まで
に申込金を除いた旅行代金及び諸費用等をお支払いください。②お申込金は使用船舶の貸切代
金の一部に使用いたします。

6. 特別補償

当社のお客様が企画旅行中に、急激かつ偶然な外来の事故により被られた一定の損害についてあらかじ
め定める額の補償金および見舞金を支払います。フリートラベルの期間は、特別補償規程第2条2項に定
める無事配日となります。

7. 取消料

お客様は次に定める取消料をお支払いいただくことにより、いつでも旅行契約を解除することができます。

旅行開始日の前日から 起算してさかのぼって	取消日	取消料
	91日前まで	無料
	90日前以降60日前まで	旅行代金の5%
	59日前以降29日前まで	旅行代金の50%
	28日前以降15日前まで	旅行代金の80%
	14日前以降	旅行代金の100%

本旅行の使用船舶は貸切船舶によるものであり、いかなる理由であれ、旅行開始後の船舶に係る旅行代
金の払い戻しはありません。

8. その他

①クルーズにご参加の場合は、海外旅行保険にご加入されることを必須といたします。②旅行条件に
定めない事項は当社旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」によります。なお、当社約款は当社ウェ
ブサイトよりご覧いただけます。

このパンフレット記載内容は2026年5月8日を基準としています。

別添諸費用（単位：円）

※2026年5月8日現在の金額です

チップ合計	178,080
ポートチャージ合計	61,600
ビザ取得代金合計	13,500
国際観光旅客税	3,000

● 最少催行人員：1,000名

- 船中泊
- 日本人添乗員が同行します
- 食事：朝104回、昼104回、夕104回
- 医師、看護師が乗船します

● 使用船舶：パシフィック・ワールド号（総トン
数：77,441トン/全長：261.3メートル/全幅：
32.25メートル/喫水：8.1メートル/乗客定員：
2,419名/運航会社：シーホークコーポレーション
リミテッドインク）

お申し込み・ご相談は 0570-030-617

9:00-17:00（定休：土日祝）
通話料はお客様負担となります

営業所のご案内

来店の際はご予約を
お願いします

(株) ジャパングレイス 本社営業所

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13 マリンビル2F
FAX: 03-5287-3083 (24時間受付)
総合旅行業務取扱管理者：中瀬加奈・延原和正・本山誠 ※

※ 総合旅行業務取扱管理者は、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。
この旅行契約に関し担当者からの説明にご不明な点があれば、ご遠慮なく上記の総合旅行業務
取扱管理者にお尋ねください。



【プライバシーポリシー】

株式会社ジャパングレイスでは、お客様からご提供いただく個人情報の取
扱いについて、ウェブサイトにてご案内しております。

<https://www.pbcruiase.jp/privacy/>

P E A C E B O A T C R U I S E



南極航路 アフリカ&南米コース

2026年12月 Voyage125



横浜発着106日間 2026.12.15 (木) - 2027.3.30 (木)

神戸発着106日間 2026.12.16 (木) - 2027.3.31 (木)

究極の世界一周クルーズ「南極」へ

The World's Wildest Places



パシフィック・ワールド号でゆく



ピースボート地球一周の船旅

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス



遙かなる南を目指す この地球、この海に浮かぶ客船で

アフリカの広大な大地、南米の美しい山々、南太平洋の輝く海——地球の南半球をめぐる旅はいつでも、私たちの想像を超えるスケールで迎えてくれます。そして、今回は旅のスケールとしては最大と言っても過言ではない——1820年の発見まで、“テラ・アウストラリス・インコグニタ”（未知の南方大陸）と呼ばれていた、南極へとその進路を進めます。今では年間2万人程の人が訪れる究極の「観光地」となった南極も、世界一周のクルーズ中に向かうのは、広い世界を見渡せどピースポートクルーズだけです。

たくさんの国境を越える世界一周の旅は、その背景にあるさまざまな歴史を垣間見る旅でもあります。しかし国際的な約束のもと、国境のない大陸・南極は、どこの国でもない人類共有の財産として、平和と自然環境が守られ続けています。世界の人びとが平和と自然環境のために協力しあえることを証明する、このかけがえのない大陸を確かめる旅へ。

ここでしか見ることのできない絶景に出会う、特別な旅にでかけましょう。

PEACEBOAT CRUISE 2026.12 Voyage125

P4-11

FEATURES

THE WORLD'S WILDEST PLACES ANTARCTICA

- 神秘の大陸で澄んだ空気を胸いっぱい吸い込んで
- 地球が織りなすアート 青と白の彫刻の世界
- 秘境クルーズの最終形、南極へ
- 南極への玄関口 南米「ウシュアイア」
- 地球を知るうえでも写真を撮るうえでも特別な場所

P12-17

MY SWEET AFRICA

- サファリへようこそ | 加藤直邦
- アフリカを食べる | 松本仁一
- アフリカで暮らす | 渡辺直子
- 地球環境の未来を考える | ワンジラ・マータイ
- ピースポートクルーズでゆくアフリカ

P18-19

DESTINATIONS & PORTS

- 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧



南極

THE WORLD'S WILDEST PLACES
ANTARCTICA

神秘の大陸で
澄んだ空気を
胸いっぱい
に吸い込んで

壮大な山々と美しい氷の世界が視界いっぱいに
広がる白い大陸、南極。青と白のその世界に
は、驚きと発見が溢れています。

この南極の地ではいま、80万年以上前の氷が探
取され、これまでに地球で起こった変化が次々
と紐解かれています。自分がいま地球のどんな
時代を生きているのか——南極の風の音を聞き、
冷たさを肌で感じることで、そんな、想像をし
たことがないようなことも、考えてみるキッカ
ケになるかもしれません。

どの大陸からも隔絶された南極への旅は、未知
なる地球の魅力を発見し、自分のこれからの人
生の転機になるような出会いがある、そんな
一生忘れることができない経験となるでしょう。





圧倒的、造形美

地球が織りなすアート 青と白の彫刻の世界

圧倒的な地球のエネルギーが生み出す芸術世界へ、ようこそ。
ここには、波と風が作り出す、あなたが訪れる日にだけ現れる氷の彫刻や
青と白のみで描かれた美しい絵画のような風景が待っています。



ビーグル水道、ドレーク海峡を 越え、南氷洋へ

南極への玄関口南米の南端ウシュアイアを出港した船は、ナバリナ島とフェゴ島に囲まれたビーグル水道を進みます。その先は、世界で最も南にある海「南氷洋」。ギネスブックで世界一幅広い海峡として認定されているドレーク海峡を抜ければ、サウスシェトランド諸島に到達です。



ビーグル水道

サウスシェトランド諸島を抜け、南極半島へ



南極半島

1820年に人類が初めて到達したこの地は、太古の地球の姿を今に残し、その大自然の中に多くの野生生物が暮らしています。



パラダイス湾

強風が吹き込まない穏やかな湾の中は、静かな海面が鏡のように広がり、氷山を映すその景色は訪れる人びとを魅了します。



ルメル海峡

南極半島の随一の景勝地といわれ、最狭部は800m以下。傾斜が強く積雪しないほど切り立った2つの岩山がそびえています。



ノイマイヤー海峡

フランス山(2,825m)、アガメムン(2,575m)などの雄大な山々、その岩肌と氷河に挟まれた絶景を望むことができます。



野生動物の楽園

南極大陸を囲む海では、たくさんの植物プランクトンが繁殖し、それを餌とする動物プランクトンも多く、これを食べる魚や鳥、そしてアザラシやクジラ、シャチなどの大型の海産哺乳類が豊かな生態系を築いています。南極で見られる代表的な動物は、アザラシ、ペンギン、カモメ、クジラの仲間など、8,000種以上の動物が生息する場所として知られています。



● プンタアレナス

ウシュアイア

ビーグル水道

ドレーク海峡



サウスシェトランド諸島

ドレーク海峡の南端に位置するこの諸島は、ペンギンの営巣地として知られるハーフムーン島など11の島々が連なります。



デセプション島

南極では珍しい活火山の島で、過去の大噴火で馬蹄形に。南極付近で唯一温泉が湧く、世界最南端の温泉地としても有名です。

エレファント島

SOUTH SHETLAND ISLANDS

サウスシェトランド諸島

キングジョージ島

ハーフムーン島

デセプション島

ANTARCTIC PENINSULA

南極半島

ノイマイヤー海峡

● オーン・ハーバー

● パラダイス湾

● ルメル海峡

南極旅行のあいことば

**TAKE NOTHING BUT PHOTOGRAPHS,
AND LEAVE NOTHING BUT FOOTPRINTS.**

とっていいのは写真だけ、持ち帰っていいのは思い出だけ、残していいのは足跡だけ

※航路や訪問地、ご覧いただける動物は天候等の条件により変更となる場合があります。

秘境クルーズの最終形、南極へ

南極への玄関口 南米「ウシュアイア」 USHUAIA

1520年、世界一周の航海の途上でマゼラン海峡を通過したフェルディナンド・マゼランが見つけたフエゴ島。このフエゴ島に位置し、ティエラ・デル・フエゴ州都であるウシュアイアが南極観光の拠点。世界中から多くの観光客が訪れます。



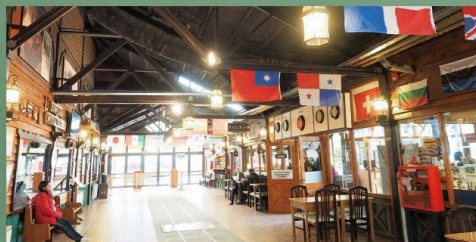
街では、郵便局や博物館からスーパーマーケットに至るまで、すべてが“世界最南端”。あちこちで、「世界最南端」や「世界の果て」といった趣句を目にすることができます。



郊外の見どころは、ウシュアイアの西方11kmのチリとの国境に広がるティエラ・デル・フエゴ国立公園。アメリカ大陸を縦断するパンアメリカンハイウェイの終着地点があります。



パタゴニア名物のラムのアサード（焼肉料理）もウシュアイアの名物のセントージャ（ミナミタラパガン）も。素材の味を丸ごと楽しむ各種料理が楽しめます。セントージャはシンプルな塩ゆでがおすすめ。



公園内はSL列車「世界の果て号」でめぐります。列車からは、樹木の伐採跡地やマカレナ滝、泥炭など公園内の景色が迎えてくれます。世界の果てで迎えてくれる駅員の皆さんの笑顔に癒やされます。

地球を知るうえでも 写真を撮るうえでも特別な場所

これまでに8回、南極を訪れていますが「世界一周クルーズの航路で訪れる」というのは、特別な感慨があります。なにより楽ですね。日本から南極へ直接行くとすると、「世界の果て」と言われるウシュアイアにたどり着くまでが長旅なのです。約40時間をかけてフライトを乗り継ぎ、アルゼンチンの首都・ブエノスアイレス経由で、南米最南端のウシュアイアに行くことになります。ブエノスアイレスからウシュアイアまでの距離はおよそ3,000km。対して、ウシュアイアから地球最後の秘境・南極までの距離は1,000kmしかありません。

ウシュアイアから約2日間かけて南極へ。旅のハイライトは刻々と移り変わり、極限の地が絶景から絶景へと誘ってくれます。僕も本当に綺麗な南極を撮りたいし、皆さんにもそれを見てもらいたい。でも現実には「美しい」だけでなく、直面する現状があります。南極半島はこの50年で平均気温が2.5度上昇しています。そうすると、雨の日が増えるんです。実際、僕が2020年に訪れた際も、かつて見た「氷の世界」ではあり得なかった、氷が溶けて水浸しの場所や氷河の後退を目の当たりにすることが多々ありました。南極への旅は、その圧倒的な美しさにふれ、その空気を吸い、そして同時にその危機を見つめる旅となることでしょう。



これまでの南極渡航での作品展を開催する水本さん。本パンフレットの南極特集の写真は、水本さんがピースポートクルーズに乗船をして撮影されました。（※一部除く）

撮影協力 / OM SYSTEM PLAZA（新宿区）

僕が初めて南極を訪れたのは、2004年のこと。ピースポートクルーズの同行カメラマンとしてでした。今はもう出来ないことかもしれませんが、5,6時間の南極大陸滞在中に就寝体験がありました。雪を踏み固めて、その中にすっぽりとみんなで入ります。少し掘り下げただけで寒さは和らぎ、顔の前を南極の風が抜けていくのを肌で感じる事ができました。もちろんしっかりと消毒をして、ゴミも排泄物も全部船に持ち帰るなど、自然に負荷をかけないように徹底をして。その後、僕は大切な出身地である鳥取の鳥取砂丘で、『小鳥の家族』という作品を撮り始め、すでに10年以上になりま

す。賛同いただける家族を募集し、砂丘で日の入りを眺め、天体観測をしながら家族の時間を過ごしてもらい、そのまま砂丘で眠る。砂丘では、大人も子どもも喜んで駆け出し、目が輝きます。それを僕は撮る——あの日、南極大陸にこの身を預けたことが、写真家として活動していくうえでの原体験となっています。

写真家
水本俊也 Shunya Mizumoto

鳥取県出身、横浜市在住。学生時代にヨット部に在籍、海をこよなく愛す。客船写真師を経て、フリーの写真家となる。2004年よりピースポートクルーズに乗船し、世界各国で撮影を続けている。日本写真家協会会員。





My Sweet AFRICA

私が愛するアフリカ

日本から遠く離れた、アフリカの国々。

大自然や数々の文化・風習、歴史など、その広大な大地には、数多くの魅力が詰まっています。

あなたが愛するアフリカはどんな場所ですか——

長くアフリカに暮らし、その土地土地と深くつながり、心を揺さぶれる日々を重ねてきた方々にお聞きました。



サファリへようこそ

加藤直邦



僕はケニア政府公認のサファリガイドとして仕事をしています。もともとは東アフリカに10年ぐらい住んでいて、今は日本にいながらアフリカ専門の旅行会社で添乗員兼ガイドとして、お客さんと一緒にツアーでアフリカを訪れています。だから僕の職場は日本ではなく「サバンナ」。アフリカにある開けた草原のことをサバンナと言いますが、そこが自分のフィールドだと思っています。

アフリカには本当にたくさんの動物が住んでいて、その数は25,000種とも言われます。みなさんが行く南アフリカでも、「サファリドライブ」で車の中から野生動物を観察できます。ここに暮らす野生動物たちは毎日観光客が来るので、サファリカーが悪いことをしないと理解している。だから、ほとんど逃げないし、驚くほど近くで普段通りの営みを見せてくれるんです。

運が良ければ食事をしているライオンを見ることもできます。ライオンはハンティングが下手で、週に一回食事ができたらいいほうなので、見られたらとてもラッキーですよ！ハゲワシやハイエナ、ジャッカルといった動物を見ることもあります。彼らは「スカベンジャー（お掃除屋さん）」と呼ばれる存在。サバンナがいつもきれいなのは彼らのおかげなんです。有名な『ライオンキング』にも登場する、「サークル・オブ・ライフ」という言葉があります。すべての命がつながっていることを意味しますが、サバンナではライオンの食べ残した肉は、お掃除さんの動物たちが食べる。ライオンもいつしか死に、朽ちたその体は草や土に還り、そこから生えた草をまたシマウマが食べる。そんなふうに、命はぜんぶつながっているんですね。動物園では見ることのできない、こういった生の現場をサファリで体感してほしいと思います。

たくさんの野生動物たちを見ると、最初は「かわいい！」と写真を撮りますが、段々見慣れてしまうと風景の一部になってしまうこともあります。でも車を止めて目を凝らすと、つやつやの毛並み、筋肉の張り具合、キラキラした目——本当にそれぞれが美しい。それは彼らが一生懸命生きているから。厳しい環境の中では、一頭一頭がベストコンディションじゃなければ生きていくことができないですし、ぜひじっくり観察してほしいです。



サファリでは、期待していた動物に会えないことも。そんなときは「きっと神様がまたおいでって言ってるんだな」と、ぜひまた来てもらえればいいかなと。逆に期待せずに、すごいものを見られることもある。僕はライオンとヒョウの組み合わせの喧嘩を見たことがあります。本当に何が起こるか分からない、その偶然が楽しいんです。

船の上は360度水平線ですが、サバンナは全部地平線。車で走っているだけで、ものすごくリラックスできます。そしてアフリカのサバンナというのは人類発祥の地。いわば僕ら人間の生まれ故郷です。壮大な風景を眺めて思いをはせる——ぜひサファリを楽しんでいただきたいですね。



加藤直邦
Naokuni Kato
ケニア政府公認サファリガイド

1972年静岡県生まれ。タンザニアの野生生物管理大学にてワイルドライフマネジメントを学ぶ。卒業後、1年間アフリカ大陸を遊学。ケニアのマサイ・マラ国立保護区にあるロッジでナチュラリストガイドとして5年間勤務。日本人初のケニア・プロサファリガイドライセンスを取得。現在は、動物専門学校非常勤講師やアフリカ専門旅行社「道祖神」にて年に数回のサファリツアーを実施している。

アフリカを食べる

松本仁一

1980年1月、アフリカを車で縦断するという新聞社の企画で、ケニアのモンバサ港から南アフリカのケープタウンまで、5ヶ月をかけてドライブしました。これが私とアフリカの最初のかかわり。その後も、常駐の特派員としてケニアやエジプトに勤務し、アフリカ大陸には長いこと暮らしました。この間、現地の人が食べているものなら、たいてい何でも口に入れていきます。

ケープタウンの沖合いは世界有数のマグロの漁場です。1980年にはそのケープタウンの港に停泊していた日本のマグロ漁船の上で、炊きたてのどんぶり飯に大トロを山と盛ったマグロ丼を馳走になりました。私を船に招いてくれたのは、若い乗組員たちでした。当時のマグロ漁船は、一航海で若手乗組員でも軽く700万は稼いでいました。荒海で長期間の厳しい操業、そして船に乗っている間は金は使わないからたっぷり貯まる。水や食糧の補給でケープタウンに寄港すると、彼らはキャバレーへ行って大騒ぎです。その間を白人のマスターが走り回って給仕をする。その頃で、マグロ船の乗組員はキャバレーで一晚20万円ぐらい平気で使っていました。

当時、南アはアパルトヘイト（人種隔離政策）の厳しい統制下にありました。アパルトヘイトというのは有色人種を差別することを法律で規定した制度です。そのため世界中の国々から経済制裁を受け、経済的には苦しい状態でした。そんな中で、一晚で20万円も使ってくれる人びとを差別することなんかできない。そして、若い漁船員たちはアパルトヘイトのアの字も知らない。久しぶりの大地、久しぶりの盛り場。それだけです。マグロ漁船の若者たちが、ごく自然にアパルトヘイトを無視し、南アの体制の一角を侵食していました。



ジンバブエで食べたのは、カメムシ。市場で、こんもり山盛りで売られて。カメムシを食べるのは、広いアフリカ内でも初めてのことでびっくりしましたね。あの独特な匂いは揮発性で、火を入れたと消えるんだそうで、塩で炒めてあるから、このままでも美味しいと勧められました。スナック感覚でポリポリ食べながら歩いたら、地元の人びとがものすごく喜んでくれましたね。



松本仁一
Jinichi Matsumoto
ジャーナリスト



ヨハネスブルグはかつては法律で白人の街として規定されていました。黒人は身分証明書がなければ立ち入れず、特別な許可がないと市内で夜を過ごすこともできませんでした。そんなアパルトヘイト制度も、1991年には終焉を迎えます。その半年後、ヨハネスブルクの街は様変わりしていました。すれ違うのは黒人ばかり。公園では黒人の子どもたちが自由に遊んでいます。中央駅そばの白人バーは、ソウェトの旧黒人居住区で居酒屋をやっていた夫婦が、居抜きで買い取っていました。ここで食べたのは羊の頭。真っ向から半分にかち割り、塩だけで8時間ほど茹でたもの。豚足のような感じですが、もっとトロトロと柔らかく、辛いトマトソースがよく合う、とても美味しい一皿でした。一通り食べ進めたところで「目玉を食べなきゃいけない」と、ママが頭蓋骨の中へ手を入れて、裏側から指で目玉を押し出してくれました。魚の目玉は熱を加えると白く固まりますが、羊などの哺乳動物の目玉は、トロトロのまま。するりと喉に落ちていき、これもまた何ともうかった。

ある食材を「食べる人」と「食べない人」がいます。たとえばカエルとかザリガニとかクジラとかイモムシとか。食べない人は食べる人を軽蔑する傾向があるんじゃないでしょうか。「え、お前そんなもの食べるの？ 野蠻！」なんて。しかし食文化というのは、地域や気候によって違うのが当たり前。それを馬鹿にしたり、毛嫌いしたりするのはやめた方がいいし、せっかく異文化を知るチャンスがあるのだから、なんでも挑戦してみたいと思うんです。「食べ物」はその土地がもたらす恵みであり、その土地そのものです。ここには、羊の目玉もあるし、マグロの山盛り丼もある。遠く離れたアフリカの情報は、日本にはなかなか届かないからこそ、思い切って飛び込んでみてほしいですね。

1968年朝日新聞社入社。アフリカ・中東問題を専門とする。ナイロビ支局長、中東アフリカ総局長(カイロ)、編集委員を歴任する。まだ日本にアフリカの情報がほとんど入ってこなかった時代から、長年に渡りアフリカの魅力や社会問題について発信してきた。2007年退社後はフリーで活動。『アフリカを食べる』『カラシニコフ』『アフリカ・レポート』『兵隊先生』等、著書多数。

アフリカで暮らす

渡辺直子



2009年に南アの政権が変わり、HIV/エイズ政策が改善されたことで、医療や薬にアクセスしやすくなり、HIV陽性でありながら生きられるようになった人が多くなりました。こうした南アの社会状況の変化や、国際情勢や時代の流れなどを受けて、2016年頃から「海外のNGO」としての将来的な活動のあり方や必要性の有無を考えるようになり、現地の人たちに相談し始めました。その中で、当時農業研修のトレーナーを務めてくれていたジョンさんに言われたのが「日本のような先進国からアフリカに人を駐在させてプロジェクトをやる時代はもう終わってもいいんじゃない?」ということ。すごく真っ当な意見で、正直に言ってとても嬉しかったです。

それ以降、JVC南ア事業では、駐在員を置かず、現地のスタッフらだけで調査を行い、活動を計画、実施できるようにしてきました。政策上の改善は確かにありますが、南アのHIV/エイズ感染拡大の背景には、貧困や女性の地位の低さ、犯罪など様々な社会課題が複雑に絡んでいます。次の世代が知識や情報を身につけて行動を変えないと、負の連鎖は永遠に終わらないと考え、現在は、エイズで親を亡くした子を含む「脆弱な家庭環境下に置かれた」10代の青少年らのサポートと育成（エンパワメント）の活動を行っています。素直な子どもたちの変化、成長はすごいもので、こちらが希望をもらい、励まされています。

私たちからすると、南アや途上国の暮らしは問題や不足が多いと感じるかもしれませんが。しかし「どんな社会を目指すのか」という問いには「これ」という答えがない。そこで生きる人が自分たちで考えて、決めて、つくっていくもの。先進国のやり方を押し付けるのは違うし、比べるものでもない。たくましく生きる現地の人たちとの出会いと、彼女・彼らに学びながらここに気づけたことが、私が南アで暮らした日々で一番印象に残る、大きなことです。



渡辺直子
Naoko Watanabe
日本国際ボランティアセンター(JVC)理事

南アフリカは、ヨーロッパ諸国からの支配とアパルトヘイト(人種隔離政策)が続いた複雑な歴史をもつ国です。国際協力NGO「日本国際ボランティアセンター(JVC)」は、アパルトヘイト撤廃が決定した翌年の1992年から現地で活動を始めました。私は2005年から事業担当になりましたが、当時はHIV/エイズの問題が深刻でした。JVCが活動していた農村部の村には病院もなく、地域の女性たちが「訪問介護ボランティア」としてホスピスケアを提供していて、彼女たちと協力しながらHIV陽性者やエイズで親を亡くした子どもたちの支援をしてきました。

2010年、JVCの周年シンポジウムに、当時活動に参加していたHIV陽性の女性、セリーナさんを招聘しました。彼女が日本の陽性者の方と交流をしたいというので場を設け、後で感想を聞くと「日本は医療機関も治療も充実していて、普通に仕事をしている方も多いけれど、一人でエイズの問題に向き合っているように見えた。一方、私たちには何もなければ、日々自宅に来てくれる訪問介護ボランティアがいて、地域に陽性者の自助グループがあり、皆と一緒に支えあい、困難に向きあえる。どっちがいいのかわからなくなった」といわれ、「確かにそうかもしれない」と衝撃を受けました。現場では、発症した方が次々と亡くなるなど、無力感に苛まれることばかりでしたが、現地の人たちにたくさん教えられ、助けられながら乗り越えてきました。人とのつながりやそれをベースとした社会のありようを学ぶことで、逆にNGO活動の意義を教えてもらう機会も多くあったんです。



南アやモザンビークの人たちが作ったビーズ細工のキーホルダーやアフリカ布のポーチ。仕事がない人などが、観光地などで売って生計の足しにしています。現地のプロジェクトとは別に、こうした手工芸品を適正な値段で買って、日本で売るという支援も行っています。

2005年南アフリカ事業担当としてJVCに入職。2009年から南アフリカHIV/エイズプロジェクトマネージャー、2010年より同国現地代表を経て、2012年度より再び東京をベースとした事業担当。同年より、モザンビークにおいて日本のODAにより行われた大規模農業開発「プロサバナ事業」に対して、現地の小規模農家たちが抗議の声をあげたことを受け、この課題に取り組むための現地調査や日本政府に対する政策提言活動も行ってきた。2023年9月末にJVCを退職。

Special Message

地球環境の未来を考える

ワンジラ・マータイ Wanjira Maathai

ワンガリ・マータイ基金代表

世界的に有名なケニアの環境活動家。ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイ教授にちなんで創設されたワンガリ・マータイ基金 (WMF) 代表。さまざまな世界的環境団体の代表、顧問を務めながら次世代のリーダーを育成し、活動の幅を広げ続けている。2019年、ピースボートクルーズに初乗船。



私の母、ワンガリ・マータイが提唱し、発足させたグリーンベルト運動。環境をテーマにした活動ですが、その当時から大切にしている目的は、「平和を育む」ことです。ケニアは長い植民地支配の歴史を持つ国です。1885年に東アフリカはヨーロッパの列強たちの勢力によって初めて分割され、ケニアは1900年初頭には英国の植民地になりました。独立するまでに63年もの歳月が必要となり、その後も15年に及ぶ独裁政権が続く苦しい時代を過ごしました。その最中、森林を中心とした資源が搾取され続けていた1977年に、グリーンベルト運動は発足しました。当時、活動の中心を担う女性たちは、社会的地位が低いとみなされていたため、緑の必要性を訴える声はなかなか世間には届きませんでした。しかし、少しずつ認知が広がると今度は、この活動が広がることによって大規模に組織化され、政治的な勢力になることを懸念した政府からの妨害が始まりました。ここから長い時間をかけて、グリーンベルト運動は環境活動と平和活動を両輪として歩み始め、2002年によりやく民主的な選挙の実現に至るのです。平和というものを掴むのは簡単な道のりではありませんが、環境と平和は一体のものでないといけないと思っています。民主化を達成し、植林活動も5,500万本の木を植えるまでに発展しました。植林に関わりエンパワメントされた女性の数は、10万人にのぼります。



母はよく、平和と環境の共存の大切さを説明するときに、アフリカの伝統的な椅子である『三本の足の椅子』の話をしていました。一つ目の足は持続可能な環境の管理。二つ目は平和。そして三つ目の足は民主主義が広がるための場です。その上の台座に市民が安心して座る。安定した社会をつくるには、三本の足それぞれが自立して立っていないといけないと思っています。「環境保護を実現することが、持続可能な社会の実現」という大きな目標を達成するための一部になるという意味で私も気に入っていて、今でも語り継いでいます。



グリーンベルト運動 Green Belt Movement



ワンジラ氏の母・ワンガリ・マータイ氏が1977年から始めた植林活動。これまでアフリカ大陸全土で5,500万本もの木を植え、植林には女性を中心にのべ10万人が参加しました。また、グリーンベルト運動の中に「MOTAINAI (もったいない) チーム」を設け、ケニアで大量にゴミとなっているプラスチック袋 (レジ袋) の削減事業を促進。「持続可能な開発、民主主義と平和に対する貢献」が評価され、2004年にノーベル平和賞を受賞しました。

ワンガリ・マータイ氏とピースボート



2008年、ワンガリ・マータイ氏のNGOピースボート事務局来訪に合わせ、環境問題に関しての意見交換を実施。この来訪をきっかけに、ピースボートクルーズもケニア寄港時に、グリーンベルト運動に参加し、現地の人びとと苗木の植林活動を行いました。マータイ氏は、「ピースボートのケニア寄港を出会いのきっかけとして、これからも平和で公正な社会についてともに考えていきましょう」と語りました。

Unforgettable Stops on an African Cruise

ピースボートクルーズでゆくアフリカ | 魅力あふれる、寄港地の数々をご紹介します

フレンドリーシティ

PORT ELIZABETH ポートエリザベス



美しい絶景が見られることで知られる「ガーデンルート」の最終地点でもあるポートエリザベス。キングス・ビーチ・フリーマーケットやボードウォークではアフリカらしいお買い物も楽しめます。



「フレンドリーシティ」の愛称通り、街には人びとが笑顔で行き交います。



近郊のアドゥ・エレファント国立公園や動物保護区では、大自然や野生動物を間近に感じるサファリ体験も楽しめます。

魅力あふれる「虹の国」

CAPE TOWN ケープタウン



頂上が平らな「テーブルマウンテン」のふもとに広がるアフリカ有数の大都市、ケープタウン。雄大な山が出迎える美しい入港シーンが見られる港としても人気があります。



多様性を認めるケープタウンの未来を担う若者たちとの交流は、ピースボートクルーズで人気のプログラムのひとつです。

アパルトヘイト (人種隔離政策) 後も、圧倒的な貧富の差から抜け出せず、貧困地域で暮らす子どもたちに、楽器などの支援物資を届ける交流もしています。



原始の地球の姿を訪ねて



国土の大部分を、8,000万年前に誕生したといわれる世界最古の砂漠に覆われています。風の動きとともに、刻一刻と姿を変えていく砂漠の景観は、言葉を失うほどの美しさがあります。

NAMIBIA ナミビア

一年を通してほとんど雨が降らない砂漠地帯に生息するウェルウィッチアは、約2,000年生きると言われています。



本船が入港するウォルビスベイは、フラミンゴが集まる「フラミンゴラグーン」としても有名です。

「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧



香港

香港といえど飲茶文化。目にも美味しい色とりどりの点心を本場で

シンガポール

五感を刺激するエキサイティングな街で、近未来の絶景に酔いしれる時間を

マレーシア

ポートクラン

マラッカ海峡に注ぐクラン川の河口に位置する、マレーシア最大の貿易港

モーリシャス

ポートルイス

まるでパラダイス。柔らかな陽光と、無垢な美しさをたたえたる海が迎える島へ

南アフリカ

ポートエリザベス

肌で感じる「アフリカ」がここに。自然の中でのびのびと生きる野生動物に出会う

南アフリカ

ケープタウン

インド洋と大西洋がぶつかりあう、ロマンを感じる南の果てで世界の広さを感じる

ナミビア

ウォルビスベイ

荒涼とした砂丘がどこまでも続く、「何もない=ナミブ」と名付けられた大地へ

ブラジル

リオデジャネイロ

世界三大美港のふもとに広がる、自然美と人工の造形美が共存する美観都市

ウルグアイ

モンテビデオ

世界有数の牛肉消費量！炭火で豪快に焼くアサド（焼肉料理）を堪能する

アルゼンチン

ブエノスアイレス

華やかさと哀愁が隣り合う、タンゴの旋律に彩られたクラシカルな街並み

アルゼンチン

ウシュアイア

荒ぶる風、氷河が生んだ雄大なパタゴニアの大地。冒険心をくすぐる果ての地へ

南極遊覧

太古からの雪と氷を閉じ込める、白い大陸。ここでしか出会えない絶景を求めて

チリ

プンタアレナス

航海史上の大発見と征服の歴史にふれる。マゼラン海峡を望む風光明媚な港町

チリ

バルパライソ

カラフルな家々に青空美術館も！世界遺産の丘の街で充実の散策時間を

ペルー

カヤオ

時を超え、今なお謎を投げかける。雲間にたたずむ驚異の天空都市・マチュピチュ

チリ

イースター島

悠久の歴史の生きた証人であるモアイ像が守る、ミステリアスな絶海の孤島

タヒチ

パペーテ

絵に描いたようなラグーンと瑞々しい大自然。南の島で味わう癒しの南国タイム

サモア

アピア

紡がれ続けた伝統文化。島の人びととのあたたかな交流も

南極遊覧

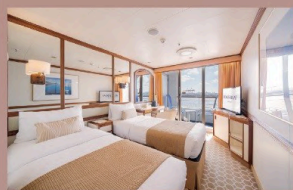
南極大陸への上陸は含まれません。南極大陸への上陸は後日ご案内するオーバーランドツアーにご参加ください。

多様なニーズに合わせて
選べる船室の数々

プライベート空間でも海を身近に感じられる、海側に面した船室を豊富に備えたパシフィック・ワールド号。旅の目的に合わせ、自由にお選びいただける船室設定です。



ペアオーナズスイート



ペアバルコニー I



セミシングルアウトサイド I



フレンドリースタンダードインサイド II



シングルスタンダードインサイド I・II

パシフィック・ワールド号でゆくピースポート地球一周の船旅
2026年12月 Voyage125

横浜発着106日間 2026.12.15 (火) - 2027.3.30 (火)

神戸発着106日間 2026.12.16 (水) - 2027.3.31 (水)

日程		寄港地	
12.15 火	出航 午前	横浜	
12.16 水	出航 午後	神戸	
12.20 日	入港 午後	香港	
12.21 月	出港 夜		
12.26 土	入港 朝	シンガポール	
12.27 日	出港 午後		
12.28 月	入港 朝 出港 午後	ポートクラン	マレーシア
1.6 水	入港 朝 出港 夜	ポートルイス	モーリシャス
1.12 火	入港 早朝	ポートエリザベス	南アフリカ
1.13 水	出港 夜		
1.15 金	入港 朝 出港 夜	ケープタウン	南アフリカ
1.18 月	入港 朝 出港 夜	ウォルビスベイ	ナミビア
1.27 水	入港 朝 出港 夜	リオデジャネイロ	ブラジル
1.31 日	入港 朝 出港 午後	モンテビデオ	ウルグアイ
2.1 月	入港 午前 出港 深夜	ブエノスアイレス	アルゼンチン
2.6 土	入港 朝 出港 夜	ウシュアイア	アルゼンチン

南 極 遊 覧				
2.14	日	入港 朝 出港 夜	プンタアレナス	チリ
2.19	金	入港 朝 出港 夜	バルパライソ	チリ
2.23	火	入港 午前	カヤオ	ペルー
2.24	水	停泊		
2.25	木	停泊		
2.26	金	出港 夜		
3.4	木	錨泊 朝 発 夜	イースター島	チリ
3.13	土	入港 朝 出港 夜	パペーテ	タヒチ
3.18	木	入港 午前 出港 夜	アピア	サモア
3.30	火	帰港 朝	横浜	
3.31	水	帰港 午後	神戸	

※訪問地や航路は、天候や海の状況による船長判断、その他の理由により変更する場合があります。

【ご確認事項】 ● 天候や現地事情の影響により、入出港日時の変更や抜港になる場合がございます。 ● 本船が沖合に停泊し、テンドーポートなどを使用し上陸する寄港地では、気象条件によっては上陸できない場合がございます。 ● この旅行は地味の旅であり、天候、政治状況の悪化、現地官憲の命令など、当社が関与し得ない事由が生じた場合、乗船客の安全を第一と考え、また航海の安全を考慮し、お客様に事前に、あるいは緊急の場合は変更後にお知らせし、旅行日程、旅行サービスの内容を変更する場合がございます。 ● 航海日程は船長や船会社の判断によっても変更される場合があります。 ● 上記のような不可抗力による変更の場合でも、払い戻しは一切ございませんので、予めご了承ください。 ● 本パンフレット記載の寄港地に関する案内文および写真の一部は、オーバーランドツアー含むオプションツアー（有料）に参加された場合にお楽しみいただける内容を含んでおります。 ● オーバーランドツアーは寄港地で一時下船して別の港で再会流するツアーです。

● 本パンフレットに掲載の写真は、お客様にピースポートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の客船で撮影された写真も含んでおります。また、季節に関わりなく全て旅のイメージです。 ● 横浜港乗船の方は神戸港にて、また神戸港乗船の方は横浜港にて一時下船はできません。 ● ご自宅から集合・解散地等寄港までの交通費は含みません。 ● イースター島では原則自由行動はできません。後日発表のオプションツアーにご参加ください。 ● 本船の航路には、南極大陸への上陸は含まれません。南極大陸への上陸は後日ご案内するオーバーランドツアーにご参加ください。